



危険箇所の調査をしている様子



防災意識の高め方を検討する役員会議

車イス避難を計画

道悦島では、昨年度、防災マップを作成しました。マップに示したのは、避難所や避難地のほか、避難ルートに存在するブロック塀や窓ガラス、危険な落下物の位置などです。防災マップ作りを行うと、みんなで調査できるため、普段の生活では目にとまらない場所も、危険箇所として認識できます。

また今年度は、防災マップの

防災マップづくりで防災意識の向上

（道悦島自主防災会の取り組み）



無線機取り扱い勉強会



防災委員が無線機所持
金谷東町では、平成6年から情報伝達手段の強化に取り組み始め、各区の区長や防災委員に特定省電力無線機（以後、「小型無線機」）を配りました。その後、防災委員は、順次アマチュア無線の免許（4級）を取得して、アマチュア無線本体を所持しています。
最初に配った小型無線機は、旧金谷町と金谷東町が2分の1ずつ負担して購入し、アマチュア無線の免許取得費用と本体の購入費は、全て町内で負担しています。
小型無線機は、電波が弱くて

災害に強いアマチュア無線で防災活動を円滑に

（金谷東町自主防災会の取り組み）

200m前後で途切れてしまうため、金谷富士見町の料理店の敷地など、中継器を2台設置して、見通し約1kmの通信を可能にしています。また、アマチュア無線機は、直接でも県外の相手と連絡を取り合うことができるほどの無線機です。

現在は、災害時の円滑な使用を目的として、アマチュア無線団体「金谷ハムクラブ」に協力を要請し、会員同士の交信を楽しみながら無線機の扱いに慣れるようにしています。

この他、新しい区長が就任する4月と、12月の地域防災訓練そして、お祭りなどイベントの交通整理の際に、各無線機を使って練習しています。



金谷東町を望む中継局

また、防災委員は、退任後もそのまま各無線機を所持し、災害時には町内に協力します。継続的に新旧の委員が連絡を取り合うことで、世代を超えたつながりが保たれ、災害時の防災活動を円滑に進めます。



金谷ハムクラブ所属
さいとうとしお
齋藤 敏雄 さん（金谷東町）

「無線機が人を強く結ぶ」

いつ何が起るかわからないという緊迫感から、当時の総代さんの相談を受けました。情報伝達手段の構築こそが「素早いお知らせ、素早い状況把握、素早い人命救助」につながると伝えました。

今では、素晴らしい無線網が構築されたと自負しています。市外の災害にも協力できます。

今思えば、この取り組みは、町内の結びつきを強める良いきっかけになったと感じています。今後も、時代に合った通信や訓練を働きかけていきます。



自主防災委員長
おおし ひでお
大石 英雄さん（道悦五丁目）

「黄色い旗が意識のバロメーター」

道悦島は、今年度、町内全体で防災意識を高めることに重点をおいています。山や海に近くないため、安全な地域であると過信している雰囲気もあります。ですが、過去に栃山川がはん濫するなど、大きな被害を受けたことも確かです。このため、今年は町内の体育祭で応急担架搬送リレーを競技に取り入れます。また、いろんな場面で防災の色を出していきたいと思っています。

9月1日の防災訓練では、民生委員も参加して、市が配布した安否確認の黄色い旗の実施率を調査しました。この実施率こそが、現在の住民の防災意識のバロメーターと言えるでしょう。



道悦島防災マップ